

さとうきび通信

平成22年：夏号

発行日：平成21年8月31日号

生和糖業(株)喜界工場

発行者・業務部原料係 重野 豊一
編集担当者：業務部 三浦 功也
原料係・増産担当 登山 浩守

◆◆夏植え時期到来◆◆

適期植付、適期管理で単収増を図ろう！

- 1、良質苗で十分な茎数を確保しましょう！
- 2、適期植付けで単収向上しましょう！
- 3、植付け時には必ず基肥を施用しましょう！
- 4、植付け直後から雑草対策をしましょう！

◆8月・9月の主な行事予定

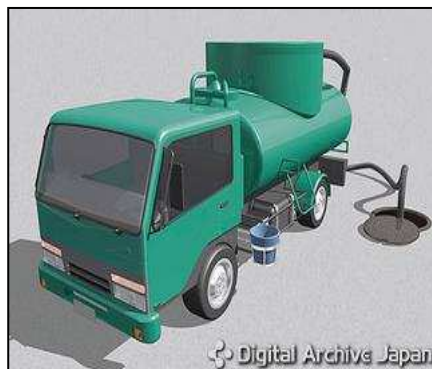
- 2～3日：喜界町夏祭り
4～12日：営農座談会
18日：生産対策協議会総会
24日：喜界町農林技術連絡協議会定例会
28日：定期生育調査
9月 15日：試験栽培・採苗、植付
16日：日甘工・農務委員会



【一条(一連)プランター植付】



【一条(一連)プランター植付圃場】



● 喜界町さとうきび生産対策協議会では灌水用にバキュームカー2台(4t車1台・2t車1台)、また喜界町糖業振興会では動力ポンプ2台、(消防ポンプ)を貸し出しております。

灌水をして増産・増収につなげましょう!!

ぜひ、お問い合わせ下さい！

◆ 早魃緊急対策として、畑かん未整備地区(スプリンクラー無し)は優先し貸出いたします。

◆ 燃料：満タン貸出・満タン返し。◆ 受付順ですが、日数を限らせて頂きます。

喜界町さとうきび生産対策協議会事務局 (生和糖業(株)内) TEL65-3133 生和糖業業務部原料係まで

喜界町糖業振興会事務局 (役場産業振興課内)

TEL65-1456 喜界町産業振興課糖業係まで

平成22／23年期さとうきび収穫面積及び生産見込み数量(6/1現在)

【一筆調査集計】	作 型 年 度	夏 植			秋 植			春 植			株 出			合 計		
		面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量
		(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t
	21/22	36,844	8.191	30,179	12,811	6.827	8,746	12,965	5.585	7,241	64,788	5.530	35,827	127,408	6.435	81,993
	21/22		#DIV/0!			#####			#DIV/0!			#####		0	#####	0

◎さとうきび品種の特性

品種の特性を把握して、植付け圃場や作型を決めよう！

品種名	特 徴	長 所	短 所	留 意 点	芽 子
農林8号 NiF8	茎の太さ 中茎 茎 数 中間型 熟 期 早期高糖	・新植時に多収(特に夏植)である ・早期高糖、収穫後品質劣化が遅い ・耐病性が全般に強い ・脱葉性に優れ、作業がしやすい	・株出萌芽性がやや劣る ・気温が上がるまでは成長は鈍い	・早期高糖であるので、3月末までに収穫することが望ましい	
農林17号 Ni17	茎の太さ 太茎 茎 数 少ない 熟 期 晩期高糖	・株出萌芽性に優れ、株出単収が高い ・台風に折れにくく、倒れにくい ・上位葉の再生が早く、潮風害に強	・新植時の単収が低い ・耐干ばつ性劣る ・脱葉性が難で作業性に劣る ・メイチュウが好んで食害する傾向	・水もちの良い圃場、灌水可能な圃場に栽培する ・分げつがすくないので新植時に密植する(二芽苗で4,100/10a)	
F177 (K1)	茎の太さ 中太茎 茎 数 少ない 熟 期 晩期高糖	・新植時に多収である ・新植時の発芽がよい	・黒穂病に弱い ・メイチュウに弱い ・株出萌芽性がやや劣る ・台風時に折損茎が多い	・黒穂病対策を徹底する ・株出萌芽性に劣るので株出管理を徹底する	
新品種 Ni22	茎の太さ 細茎 茎 数 多い 熟 期 極早期高糖	・発芽、萌芽、分げつ性に優れ、生育初期の茎伸長がよい ・台風に折れにくい ・糖度上昇が早く、年内収穫が可能	・茎数が多すぎて手収穫には不向きである ・早魃地域には不向きである	・早期高糖であるので、2月末までに収穫することが望ましい ・ハーベスタ収穫向き	
新品種 Ni23	茎の太さ 中太茎 茎 数 中間型 熟 期 晩期高糖	・発芽、萌芽、分げつ性に優れ、生育初期の茎伸長がよい ・どの作型においても多収である ・干ばつ条件下でも多収である	・台風時に折損茎が多い(折損により収量低下あり) ・黒穂病にやや弱い ・葉がたれて除草剤散布作業に難あり	・台風時に風の影響を受けやすい圃場の栽培は避ける ・黒穂病対策を徹底する	

【注】上記の特性は農畜産業振興機構の資料抜粋です。圃場にあった品種を農家各自で選定して下さい。

【表】

●さとうきび増産は雑草対策が決めて！

◎単収向上に効果的な土壌処理。

※土壌処理：植付直後に雑草発生前に土壌表面に散布し処理層を作って雑草の発芽を抑制若しくは死滅させる。センコル水和剤、カーメックスD水和剤を散布する。以上の作業で約2ヶ月間は除草効果があります。

※カーメックスD水和剤はNIF8号に薬害のおそれあり！



【土壌処理圃場】

◆農薬種類・投量・散布量の詳細

除草剤名	使用時期	使用量	散布水量L/10a
カーメックス	植付後	100～150g	100L
センコル	植付後	300g	100L

※規定の10a当り使用量を全て散布しないと効果が薄れます。



◆土づくり：クロタリアを鋤き込んで地力増進につなげる！

- ① 新植の場合は、植付前に、堆きゅう肥の有機物資材を2t/10a、地力が弱い場合は4t/10aを散布し混和しましょう。
- ② 緑肥（ヒマワリ、クロタリア）やハカマ等をすきこむ場合は、分解促進のため石灰窒素及び硫安 30～40kg/10aを散布し、すきこみましょう。
- ③ プリンスベイトと基肥の施肥実施
植付時に、プリンスベイト(10a/6kg)及びアドバンテージ(10a/6kg～9kg)を使用し基肥を 3袋/10a使用しましょう。
- ④ 適正な畦幅(120cm)・株間(30cm)に良質苗を多めに植えましょう。



【開発組合】のハカマ・4、5ヶ月置くと有機物資材。今年は自己引取運搬で無償でお渡しします。圃場に投入し、地力の増強に役立てて下さい。

去る7月29日、平成22年度喜界町糖業振興会総会が休養村管理センターでおよそ 名を参集して開催されました。

表彰式にあたり、本年度優秀集落(一戸当たり株出収穫面積順)として、1位：前金久 2位：花良治 3位：中熊集落がそれぞれ表彰されました。次に下記記載の各部門の表彰がありました。敬称は省略しました、悪しからず！

▼高生産の部

坂 嶺： 岩下雅一郎 1,396t
神 宮： 岩野 浩二 1,186t
中 熊： 尚 長八 1,171t
花良治： 大立川栄一 1,106t
上嘉鉄中： 徹島 正人 1,092t



▼高単収の部

志戸桶東： 浜川 謙一郎 10,077kg
花良治： 吉川 廣志 9,729kg
前金久： 実田 輝満 9,693kg
神 宮： 橋本 照豊 9,570kg
神 宮： 北村 忠広 9,563kg



▼春植・株出の部

坂 嶺： 岩下雅一郎 1,396t
神 宮： 岩野 浩二 1,186t
中 熊： 尚 長八 1,171t
坂 嶺： 開 孝俊 849t
川 嶺： 稲津 文昭 725t

また、75歳以上さとうきび栽培従事者として30名の方々が表彰されました。

§ § § § §以上の集落及び受賞者の方々、誠におめでとうございます、改めてお祝い申し上げます。§ § § § §

注・意



★島の北東部地域中心にタイワンツチイナゴ(バッタ)が発生しております。イナゴは夏の干ばつ時に発生します。圃場を見回り食害がひどいようであれば、スミチオン乳剤(1,000倍)10a当たり250リットルの防除を行って下さい。
★株出圃場であさがお(ハンダ)が繁茂している圃場が多く見受けられます。早目に除草剤(2,4-D)の散布を行って下さい。



【生和：一言コラム】

生和糖業(ショウワトウギョウ)おかげさまで50周年

生和糖業(株)が昭和34年11月、喜界島に設立され、おかげさまで50周年を迎えることが出来ました。「生和糖業は自然の恵みに感謝し、さとうきびから効率良く砂糖を作り、豊かなくらしに貢献します。」の企業理念をモットーに、半世紀にわたり砂糖を作り続けてまいりました。50年を振り返ってみますと、設立当初の昭和34年産は会社搬入量4千5百トン(黒糖)からスタートし、翌35年産は1万3千トンその後、年1万トンずつ増え39年産の搬入量7万9千トン、自家製糖を含め喜界島全体で10万トン台まで達しました。昭和49年までの11年間は10万トン台の生産量を維持していましたが、その後は9年間で10万トンを超えた年は53年・54年の2期のみです。原因は台風被害と干ばつ被害でした。60年産の生産量は12万11トンと過去最高の生産量を達成しました。しかしその後のさとうきびの生産量は下降の一途をたどり始めます。平成2年～3年までには9万トン台に落ち込み、平成5年～15年迄の生産量は8万トンから7万トン、そしてついに16年・17年のさとうきび生産量は相次いで6万3千トンと過去最低まで落ち込みました。

さとうきび収穫面積の減少、生産量の低下傾向に、歯止めをかけるため国は新たな政策として平成17年10月「サトウキビ増産プロジェクト」を立ち上げ、各島々、増産に向けた目標及び取組計画を掲げ、各関係機関も危機感を持って取り組みました。

以降、台風の接近もなく気象条件にも恵まれ、また生産農家の皆様のご努力により、平成18年からは次第に生産量も増え平成20年度は9万1千トンを超えるさとうきびを頂きました。誠にありがとうございます。今後は工場も無駄の無い効率的な砂糖生産をめざし、将来への布石としての設備更新は勿論のことその設備を使った製糖技術力の向上と、後輩の育成に注力してまいります。また、喜界島の基幹産業であるさとうきび産業の発展のため、ひいては島の持続的発展のため各関係団体と一体となって取り組んでまいります。株出体系の兆しも芽生えて、収穫面積も増えてまいりました。株出単収の復活で生産量の拡大と農家の皆さんの増収を図っていかねばなりません。今秋には50周年の式典行事等が計画されておりますが、さとうきび産業の再興と島の発展を祈念し、共に慶びたいと思います。植え付けが終われば間もなく製糖期となりますが、お身体をご自愛いただき、今後ともよろしくお願いいたします。



【生和糖業・喜界工場】